

「授業」で生徒を、学級を伸ばす 第3回

学び合い

— クラス全員が学びに参加する授業 —

クラス全員が学びに参加する授業形態の一つとして、
学び合いが注目されている。

しかし、なぜ学び合いが有効なのか、
全ての生徒が主体的に学びに向かうようになるのか、
疑問を感じている先生も少なくない。

本特集では、インタビューと学校事例を通して、
学び合いによる生徒の変化とその実践の工夫を考える。



学び合いの現状と 授業に取り入れる際の工夫

小誌の読者モニターアンケートやヒアリングからは、
学び合いに関してさまざまな疑問や不安を感じている先生が多いことが明らかになった。
今回紹介する3校では、同様の課題を少しずつ改善した結果、生徒や教師に変化が見られつつある。

学び合いに関する疑問・不安

関心はあるが……

学び合いで本当に学力が付くのか分からない

特定の学力層の生徒しか伸ばせないのではないか

荒れている学校や落ち着きのない学校でも成立するのか

孤立する生徒はいないのか

取り入れてみたいが……

まず何から始めれば良いのか分からない

学び合いの具体的な方法が分からない

既に取り組んでいるが……

今の学び合いで良いのか、学び合いになっていないのではないかと不安

保護者から理解を得にくい

導入に消極的な教師が多く、学校全体の取り組みに発展しない

学び合い—クラス全員が学びに参加する授業—

学び合いで大切なこと

- 自立した学習集団を目指して、目標を語り続ける
- 教師が教え込むのではなく、教師が提示した課題に対して生徒が自由にグループをつくり、学び合う

上越教育大 西川純教授
▶ P. 6

学校事例に見る子どもたちの変化

- 生徒が学びを楽しむようになる
- 課題を終えても『分かったつもり』のままにせず、納得するまで求め続けるようになる
- 仲よしグループを超えて、課題解決のためにグループを横断的に動き、新たな人間関係が生まれる
- 複数の『分からない』が学力上位層の理解を揺るがし、更なる学習行動へと動かす
- ノートすら取らなかった生徒が途中まで解答を考え、どこまで分かり、どこが分からないかを友だちに説明できるようになる

小牧市立北里中学校
▶ P. 10

松川町立松川中学校
▶ P. 16

佐賀市立東与賀中学校
▶ P. 21

学校事例にみる実践の工夫

- 机の並べ方やグループ分けなどの「型」ではなく、学び合いの考え方を取り入れてみる
- できる教科・単元から取り組む
- 3年間の視点で考え、1年目は学び合いのスキル指導に重点を置く
- 模擬授業や「学び合い通信」の発行で目指す授業像を共有する
- 成績だけでなく、人間関係や学習意欲、自己肯定感を丁寧に育てる
- 成果を焦らず、生徒を信じて続ける
- 授業公開や「学び合い通信」の発行で保護者の理解を得る

小牧市立北里中学校
▶ P. 10

松川町立松川中学校
▶ P. 16

佐賀市立東与賀中学校
▶ P. 21

小牧市立北里中学校
▶ P. 10

松川町立松川中学校
▶ P. 16

佐賀市立東与賀中学校
▶ P. 21